



[kaze]

Dec.2021

神戸大学 広報誌

Vol.18

Kobe University Public Relations Magazine

特集1 創立100周年神戸大学大学院工学研究科・工学部
人類の「しあわせづくり」に貢献する
自由で豊かな「知」の拠点構想

特集2 400万PV達成の「鬼滅の刃」キャラクター論を上梓
「不思議」の研究から現代を読み解く

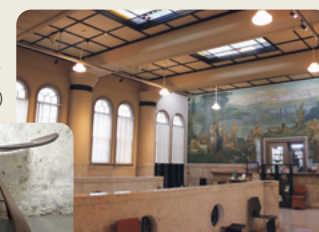
神戸大学は2022年に
創立120周年を迎えます

創立120周年記念
特設サイトがオープンしました



神大こぼれ話

六甲台第一キャンパスにある社会科学系図書館。正面の大壁画「青春」(中山正實作)に目を惹かれますが、実は廊下にはバタフライストールなどの少し変わった椅子も置いてあるんです。



読者の皆様へアンケート ご協力をお願い

神戸大学広報誌『風』をお読みになったの感想をお聞かせください。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。アンケートの所要時間は3分程度です。



発行日：2021年12月

編集・発行：神戸大学 総務部広報課

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL.078-803-5083 FAX.078-803-5088

アートディレクション・デザイン：有限会社ティクリエイション / 印刷：能登印刷株式会社



特集1 創立100周年 神戸大学大学院 工学研究科・工学部

人類の「しあわせづくり」に貢献する 自由で豊かな「知」の拠点構想



大学院工学研究科・工学部

2021年12月、工学部は創立100周年を迎えた。これまでに3万余名の技術者、経営者、研究者等を輩出してきた伝統を継承しつつ、次の100年に向けたビジョン「世界とつながる『知』の拠点、神戸で ものづくり、ことづくり、そして ずっと続くしあわせづくり」を策定。このビジョンに込めた思いを小池淳司工学研究科長・工学部長に聞くとともに、工学研究科の最新研究や、在学生、OG・OBの声を紹介する。



廣田精一 初代校長
1926(大正15)年頃

神戸大学工学部

第一次世界大戦に伴う日本の産業発展と好景気を背景として、1921(大正10)年12月に官立神戸高等工業学校(神戸高工)が設置された。これが神戸大学工学部の100年にわたる歴史の始まりである。当初は建築科、電気科、機械科の全3学科、後に土木科、精密機械科、化学工業科が逐次増設され全6学科となる。

初代校長の廣田精一は、「規津・持続・執着(後に執守)」の三徳を教育理念とし、日本人の放漫な国民性が国際社会の信用を失い日本の発展を妨げる短所であるとして、生徒には服装の乱れを決して許さず、靴を清浄に保つこと、実験室の配線やコード類の整理整頓を徹底させ、“粗製濫造を防ぐには、工場の清潔が第一である”との堅実な心構えを教え諭した。さらに、机上の学理だけでなく実地を重視し、機械科汽罐室(ボイラー室)の煙突には「神戸高等工業学校」の8文字を1字1㎡で書き、遠方から正確に物の大きさを把握するための実習に活用した。また、最新の工業技術を広く一般市民に紹介する「開校記念展覧会」を1924(大正13)年から毎年校内で開催し、最新技術を目の当たりにした人々は未来への夢と希望に胸を膨らませ神戸高工のレベルの高さに賞賛の声をあげた。日本に輸入された最初の電気自動車を最初に試運転したこと知られる廣田校長の下で、機械科と電気科の合同により電気自動車(最高時速36マイル(約58km))が製作され、1926(大正15)年の大阪電気大博覧会や1928(昭和3)年東京の産業教育展覧会に出品された。第2代校長古宇田實も「規津・持続・執守」の三徳を大切に継承するとともに、1932(昭和7)年に最新技術の成果を展示する「工業科学博物館」を設置して一般公開も定期的に行った。1944(昭和19)年に官立神戸工業専門学校(神戸工専)と改称されたが、翌年3月の神戸大空襲で校舎の大半が焼失してしまう。

1949(昭和24)年、神戸工専を母体として国立神戸大学工学部が発足した。当初の工学部は西代学舎と松野学舎の2ヵ所に分かれ、非効率で一体感に欠けるという問題があった。しかも敷地が狭く、戦災で実験室や機器類が不足し、神戸高工以来の西代学舎は本学所有だが松野学舎は神戸市からの借用であり、こうした課題の多い状況下で広大な新天地への学舎移転が早くから望まれていた。工学部の誘致に名乗りをあげたの



六甲台移転後の工学部 1970(昭和45)年頃



神戸高等工業学校の本館 1925(大正14)年頃

が尼崎市である。工学部は前向きに検討を進め1953(昭和28)年に尼崎移転計画がはじまるが、神戸市が猛反対し、また古林喜楽学長が大学本部のある六甲台への学舎統合を企図し、さらに尼崎市の財政悪化が加わって混迷を極め、翌年、文部省及び大学設置審議会が尼崎市への移転を不適当と判断したため、結局、六甲台への移転が実現に向かう。1961(昭和36)年に西代学舎が六甲台に移転、翌年松野学舎も移転し、工学部の六甲台移転が完了する。

戦後のめざましい科学技術革新に伴い、学科・講座の増設、学生定員の増募、内容充実、大学院設置に力が注がれた。当初の工学部は建築学科、電気工学科、機械工学科、土木工学科、工業化学科の全5学科(入学定員140名)でスタート、1958(昭和33)年に最初の学科増として国立大学初の計測工学科が設置されたことを皮切りに、化学工学科、生産機械工学科、電子工学科、システム工学科、環境計画学科が逐次設置され全11学科となるが、新たな時代に対応するため1992(平成4)年に11学科を5学科(建設学科、電気電子工学科、機械工学科、応用化学科、情報知能工学科)に大幅改組し、2007(平成19)年に建設学科を建築学科と市民工学科に改組、現在は全6学科[入学定員585名(3年次編入生20名を含む)]である。

大学院設置には多大な困難が伴った。1955(昭和30)年に大学院設置の足掛かりとして工学専攻科が設置され、1964(昭和39)年に大学院工学研究科(修士課程)が設置されたが、博士課程設置という最大の課題が残された。紆余曲折を経て1981(昭和56)年に理・工・農学部等を母体とする独立研究科として大学院自然科学研究科(博士課程)が設置され、長年の念願であった博士課程設置が複数学部連携により実現する。なお、法人化後の2007(平成19)年に自然科学研究科を解体して大学院工学研究科(博士課程)が設置され、2010(平成22)年には次世代スーパーコンピュータ「京」の活用を視野に入れて工学研究科情報知能学専攻を独立させ大学院システム情報学研究科が新設された。現在工学部は学内最大組織であり、世界最先端の教育研究に日々挑み続けている。

(大学文書史料室 室長補佐 野邑理栄子)

■Contents

【特集1】 創立100周年 神戸大学大学院 工学研究科・工学部	03
【特集2 神大研究ズームアップ】「不思議」の研究から現代を読み解く	08
【神大生の挑戦】サッカー部 164名からの応援の気持ち	12
【キラリ神大 OG・OB】 WE HAVE WINGS ～神戸大学から世界へ～	14
【神大×LOCAL】「ワールドマスターズゲームズ 関西」のレガシー創造	16
【新型コロナと神戸大学】コロナ禍と向き合う学生たち	18
【神大人の本】神戸大学教職員の手による著書・翻訳書などを紹介	20
【神戸大学基金だより】／「アラムナイ」	22
【Mini News】	23

表紙写真：六甲台第2キャンパス 工学研究科・工学部 D1.D2棟 神戸市灘区六甲台町1-1

vision

世界とつながる「知」の拠点、神戸で
ものづくり、ことづくり、そして ずっと続けしあわせづくり

●これまでとこれから



神戸大学工学部の100年の歴史を振り返り、多くの工学人材を輩出してきた実績を再確認しながら、持続可能で幸福な社会づくりを視野にいたれた工学研究の発展をめざすこれからの工学部をイメージしています。

●私たちの神戸大学工学部



1つの芽が大木となり多くの実をつけるまでには、豊かな土壌と太く張り巡らされた根、継続的で細やかなケアが不可欠です。神戸大学工学部における人材育成の考え方も同じで、広い視点から多角的に人材を育成する環境を整えます。

●ずっと続けしあわせづくり



工学研究がこれまで培ってきた叡智を道標に、教員や学生が共に未知なる対象に向き合う研究者仲間として、不確実で流動的な社会の中のまだ見ぬ可能性を問いながら歩む姿を、夜の航海に見立てて表現しています。

的に正しいとしても倫理的にはどうか」あるいは「90%の人にとって良い技術であっても、10%の人にとって致命的な問題があつたらどうするか」といった判断において、技術者が責務を負っていないとは言いきれません。そうした判断を迫られたときに、正しい価値判断を導くプロセスについて、しっかり教育していく必要があります。

学技術の影響力は日増しに強くなっている、地球温暖化などの社会の問題に対して、技術者が意見や意思決定を求められる場面も増えるでしょう。技術者の価値判断の問題に取り組むことは、100周年ビジョンのアクションプランを考える上での課題です。

考える素養と能力が必要で、それなしに「言われたからつくる」という技術者では困ります。社会の在り方に対してと言及し、科学技術、工学技術を使うでどんな社会が実現できるかというビジョンを社会に与えていく役割が、工学にはあるのです。

と数値目標が乖離していくことを警戒し、常に俯瞰的にものを見る姿勢が、自由な発想においてはとても重要です。「創造性を育む価値観の形成」という教育理念を実現し、工学部を「知の拠点」として確立したいと思っています。

——高校生に向けて工学部のアピールを。

神戸大学の工学部には優秀な学生が多いです。その能力を創造性豊かに開花させるために、学生自身が何をしたいのかということを、工学部ではしっかり考えています。自分の発想で世の中を良くしたいと思う学生の皆さんを歓迎します。

100th Anniversary

Special Topic

神戸大学大学院工学研究科・工学部 創立100周年ビジョン

技術がもたらす「より良い社会」を提案し、実現する創造性を育む

——100周年を学部長として迎える心境は？

100年の歴史は非常に重く、背筋が伸びる思いです。神戸大学工学部は、優秀な人材を輩出してきており、教職員、OB・OGの方々の活躍によって社会的評価も高い。その伝統を引き継ぎ、新たな第一歩を踏み出すことに、重大な責務を感じています。

——100周年ビジョンに込めた思いは？

国際都市・神戸にちなんで、「世界とつながる『知』の拠点、神戸でものづくり、ことづくり、そして ずっと続けしあわせづくり」というビジョンを掲げました。工学は、日本の高度経済成長の支えとなったものづくりを支えてきた学問で、工学教育・研究は、技術者の育成を重要な目的として進められてきました。その後、日本の産業構造

は変化し、今やGDPの6割以上をサービス業が占めています。ものづくりの重要性は変わりませんが、新分野としてサービス的なものとの融合、あるいはつくつたものがどう生かされるかまでを含めて工学研究の対象とするようになっていきます。ものをつくるだけではなく、それをどう生かすか、そして最終的に人類の安寧に寄与することが重要です。次の100年に向けて、そこまで含めた研究・教育を実現するという思いが、このビジョンには描かれています。

——どういつ社会を実現するかが重要だと？

そうですね。大学の工学教育は、本来、科学技術を社会に還元するために行われています。科学とは社会のいろいろな事象を見て普遍的な法則を見つける作業であり、その法則を社会に還元するとき、社会を構成する人々の個性や違

いに合わせて調整する行程を工学が担います。たとえば、医学の分野で新しい治療法が見つかったとしても、治療の現場では患者に応じた処方が不可欠です。だから工学技術者とは、いわば町医者のような存在なのです。新しい科学技術を社会のいろいろな問題にあてはめ、加工して、誰もが喜ぶようなものにしていくことが「しあわせづくり」につながるわけです。

そのためには、科学技術を勉強するだけでなく、その技術が社会に与える影響まで理解することが、工学を学ぶ者の使命となります。そこで私たちは、今後の教育において「教養」を一つのテーマに設定しました。教養とは、私の言葉でいえば「価値判断ができること」です。

——価値判断とは、倫理的な意味での？
そうですね。意思決定の場面で「科学

大学院工学研究科 市民工学専攻教授
工学研究科長・工学部長

小池 淳司

KOIKE Atsushi

1992年岐阜大学工学部土木工学科卒業。1994年岐阜大学大学院工学研究科博士課程修了。長岡技術科学大学環境建設助手、TNOオランダ応用科学研究所客員研究員（文部科学省在外研究員）、鳥取大学工学部社会開発システム工学科准教授を経て神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻教授。2021年から工学研究科長・工学部長。専門は土木計画学。



次世代に向けた工学の分野を担う人と研究

Student's voice

ものづくりを通して社会に貢献したい



川崎 湧太
KAWASAKI Yuta
工学部 応用科学科3年

私は大学受験の時、理学部か工学部で悩んだ末、ものづくりを通して社会に貢献したいと思い、工学部を選びました。現在は、有機化学、無機化学を問わず、多様な化学分野を学んでいます。3年次には実験もあり、1～3年生の授業で学んだことを実際に活かしています。4年次には研究室配属が行われるので、皆これからどの研究グループに進むか検討しながら日々実験に取り組んでいます。

授業は新型コロナウイルスの影響

で大半がオンラインですが、その分課題も多く、日々実験のレポートと授業の課題に追われています(笑)。最近では研究室見学も行い、実際に自分の目で研究室を見て、自分に合った研究室を探しています。私は将来、水不足やエネルギー不足などの環境問題に取り組みたいと考えているので、それに合った研究室に入りたいと思っています。

工学部100周年は純粋にすごいです。100年という長さは、その長い年月の間に学んだエンジニアたちが社会に出て活躍していることを表していると思います。私にとってはそれが真に魅力的なことであり、私自身もその一員になることを目指しています。

在校生として100周年を迎えられることが光栄

神戸大学工学部の創立100周年、誠におめでとうございます。この節目の年を、在校生として迎えらることを光栄に思います。

私は、小さい頃からものづくりに興味がありました。特に建築について学びたかったため、工学部建築学科に入学することを決めました。

大学の授業で一番印象に残っていることは、設計課題です。課題やアルバイト、サークル活動全てをこなすことは大変であり、徹夜することもありました。初めてのことでもあり設計課題はとても難しかったです。しかし、楽しさも見出しました。頭の中にしかないものを実際に見えるようにしていくことが設計課題の面白さだと思いました。授業を



弘田 香奈
HIROTA Kana
工学部 建築学科4年

通して住宅などの小さな規模の建築に、より興味を持つようになりました。

そして、来年度からは住宅のリフォーム会社で働くことに決めました。そこでは、お客様一人ひとりに合ったプランを提供できるように精一杯努力していきたいです。

最後になりましたが、今後も神戸大学工学部がさらに発展していくことを願っています。

Message from graduates

工学部で得たものが活きる場面が必ず来る

この度は、神戸大学工学部創立100周年とのこと、心よりお祝い申し上げます。

さて、私は2014年より工学部に在籍しましたが、中でも鮮明に思い出されるのは、4年生以降の研究室での日常です。不甲斐ないゼミ発表をしまい先生から怒られたことや、研究が進まず1日中頭を悩ませ、研究室で朝を迎えたことも幾度となくありました。しかし、私たち学生に真摯に向き合い指導して下さい先生方や、切磋琢磨し合えた研究室の仲間がいたからこそ乗り越えることができました。

現在は、途上国における鉄道発展のための調査や分析、計画策定を行う仕事をしております。日々の業務の中では思考力や分析力、そして発信力が必要とされますが、これらは研究活動の中で培われたと実感することがあります。在学中の学生さんたちの将来はわかりませんが、必ず工学部で得たものが活きる場面が来ると思うので、今は自信をもって目の前の勉強や研究に取り組んでほしいと思います。



日本工営株式会社 勤務
大高 枝里 OHTAKA Eri
2021年
工学研究科市民工学専攻 修了

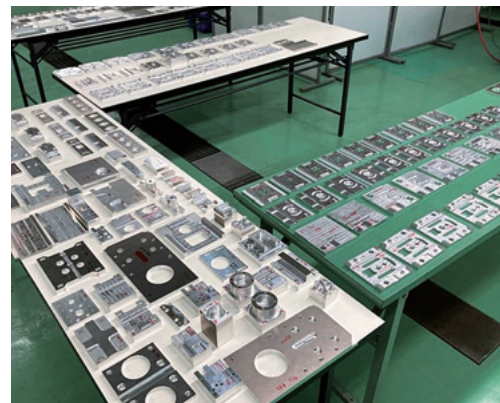
仕事の質を左右するのは物理・数学の知見と思考力

関西を出て福岡県のロボットメーカーに入社した私は、生産技術部配属となり現在4年目になります。メーカーに就職する方の多くは製品設計職を希望すると思いますが、生産技術部でもメカ設計は出来ますし、むしろ自由度が高くて楽しい!というのが今の私の感想です。設計者としてまだまだ勉強中の身ですが、学生時代を思い返すと、特に研究室配属後の3年間は非常に恵まれた訓練の場だったと改めて思います。試験装置やシミュレーションソフトは自由に触ることができた上、毎週のミーティング、定期報告会では自身の論理を客観的に評価して頂けました。

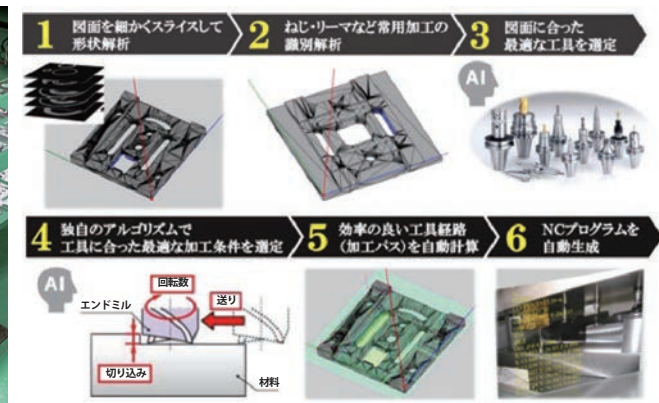
当時私はヨット部に所属しており、部活に精を出すあまり准教授には叱られてばかりの日々でしたが、今では大学院に進学して本当に良かったと感じていますし、先生方には非常に感謝しています。工学系の大学卒にとって、仕事の質を左右するのは物理・数学の知見と思考力です。研究テーマがどんなにニッチでも地味でも、目の前の課題に向き合い、地道に解決する中で思考力は着実に養われます。学生の皆さん、今ある環境を存分に活用し、自分の血肉としてください。



株式会社安川電機 勤務
長尾 淳志 NAGAO Atsushi
2018年
工学研究科機械工学専攻 修了



加工事例データ蓄積のための実加工結果

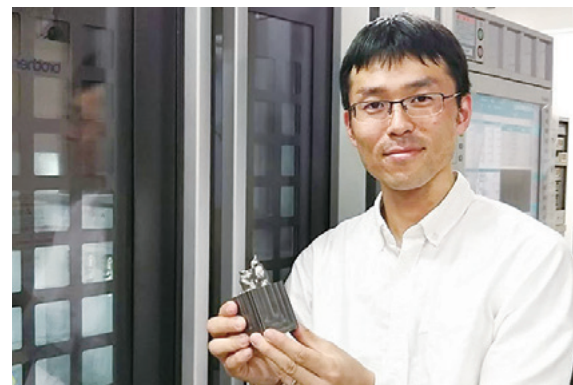


工具の経路情報の完全自動生成技術

私たちが日ごろ手にしたり利用したりする製品(例えばスマートフォンやパソコン、自動車、航空機)の部品には、数多くの機械加工部品が使用されています。スマートフォンの筐体から航空機エンジンのタービンブレードに至るまで、アルミニウム合金などの金属の塊から削り出して加工されています。一般的に、金属材料の製品を削り出して加工する場合、数値制御(NC)工作機械と呼ばれる機械で加工します。これは切れ刃のついたエンドミルと呼ばれる工具が高速で回転し、予め作成された工具の経路情報(NCプログラム)に従って工具が移動することで、材料を除去(切削)していく加工となります。しかし、このNC工作機械での加工は一見すると自動化が実現されていますが、機械に指令する工具の経路情報を作成するには、非常に多くの手間と時間、さらには機械加工の知識を要します。つまり、一見自動化が実現されている機械加工も、それを実現するまでの段取りに人手を要しており、完全自動化にはまだまだ至っていないのが現状です。スマートフォンや自動車の部品のように同じ形状のものが大量に市場に供給されるのであれば、一度手間と時間をかけて工具の経路情報を作り

こめば、何百台というNC工作機械を並べて加工すると、その部品1個当たりの段取り工数の占める割合は無視できるかもしれません。しかし町工場では、1個しか作らないという部品も珍しくなく、例えば工具の経路情報の作成に60分(人手)、機械での加工が10分(自動)というようなことも珍しくありません。さらに、経路情報を作成できる熟練の技術者は限られており、人的資源が枯渇しているのが現状です。世界が掲げている持続可能な開発目標(SDGs)にある持続可能な産業化を実現するためには、従来のような人に依存したやり方だけではなく、コンピュータ技術やIoT技術を駆使した新しいものづくりの仕組みを構築する必要があります。

私の研究では、製品の3次元のデジタル情報(CADモデル)のみを入力して、工具の経路情報の作成を完全に自動で実現するシステムを構築しています。CADモデルの形状を解析して、除去すべき領域の情報や各領域の加工に使用する工具の選定、加工条件の決定、加工順序の決定など、従来では熟練の技術者が行っていた高度な判断をソフトウェアに組み込むことで自動化を実現しています。これにより、自動化できる加工はシステムに任せて、熟練の技術者はより高付加価値の加工に専念することが出来ます。人とシステムのいいとこ取りをして、共存していくことが大事です。



機械加工の完全自動化で町工場の危機を救う

神戸大学大学院工学研究科助教 西田 勇

NISHIDA Isamu

400万PV達成の「鬼滅の刃」キャラクター論を上梓

interviewee

「不思議」の研究から現代を読み解く

大学院 国際文化学研究所
国際文化学研究推進センター 協力研究員

植 朗子
UE Akiko

和歌山県新宮市生まれ。大阪市立大学文学部国語・国文学科卒。大阪市立大学大学院文学研究科前期博士課程修了。神戸大学大学院国際文化学研究所後期博士課程修了。2016年、未来を強くする子育てプロジェクト「フミセイ女性研究者奨励賞」受賞。専門はドイツ語圏の民間伝承、伝説、神話学、植物民俗学など。雑誌『アエラ』のウェブサイト「AERA dot」で、日本のポップカルチャー（『鬼滅の刃』など）に関するコラムを不定期連載中。

社会現象と呼ばれるほどの支持を集める漫画・アニメ作品「鬼滅の刃」。その登場人物たちを分析して論じる連載記事を、ウェブメディア「AERA dot（アエラドット）」で発表し続け、400万PVという驚異的なアクセスを獲得しているのが、国際文化学研究推進センター協力研究員の植朗子氏だ。伝承文学や神話学、ドイツ民俗学などを専門に研究し、特に怪異譚や奇譚などの不思議な出来事にまつわる伝承、伝説、迷信、言い伝えなどへの造詣が深い植氏に、現代のポップカルチャーを神話・伝説の研究メソッドで読み解く意味と、そこから見えてくるものについて聞いた。

不確かな「怪異」現象が事実と継承されるプロセスを探る

——先生の主な研究領域は？

19世紀ドイツ語圏の民間伝承を専門に、民俗学と文学にまたがる領域で研究を行っています。特にグリム兄弟の三つの大著、童話集、伝説集、そして兄のヤーコプが編纂した「ドイツ神話学」を主な研究対象にしています。

なかでも専門と言えるのが伝説集です。伝説には実際の地名や実在の人物が登場する分、歴史的事実との重なりが強いのですが、多くは記録として断片が残っているだけで、起承転結のある物語にはなっていない。それだけに、手を加えられていないと考えられる点で、私たち研究者にとっては重要な資料なのです。

なぜドイツ語圏の伝承研究を？

学部生の時、「宇治拾遺物語」に収められている、腐っていない死体が発見される話に関心を持って、その類話を探しているうちにドイツの伝説集と出合いました。以来、怪異と肉体の関係を研究テーマの一つにしています。たとえば、怪異には、妖怪のように体があるものと、幽霊のように体がないものがあります。体



研究と言えるかもしれません。

——具体的に、どのようにテキストを読み解く？

語りや文章に出てくるもの、たとえば「夜」「坂道」「葬儀」「光」といったすべての要素をモチーフといいます。それらモチーフの組み合わせや、モチーフどうしのつながりが不自然な場合は、創作や夢などの整合性のないものが混入していると判断できます。そこから事実性が高いか低いかを見極めます。これまで聞いたことのないモチーフの組み合わせが見られるにもかかわらず、非常に事実性が高いと判断できるテキストに出合ったときは、とてもワクワクします。

「鬼滅の刃」キャラクター論の連載に400万PVのアクセス！

——「鬼滅の刃」について書くようになったきっかけは？

私は以前から、神戸大学・国際文化学研究推進センターに所属していた2人の研究者とともに、「神戸神話・神話学研究会」、略して神神神（しんしんしん）という研究会を作り、ポップカルチャーと神話のつながりについての共同研究を行っています。「鬼滅の刃」にはもともと個人的に興味があったのですが、作品の人氣が

非常に高まった時期に、雑誌やウェブメディアに「鬼滅の刃」に対するネガティブな記事が多数掲載されるようになったのです。たとえば、若い登場人物たちが命を捨てて戦うことをためらわない姿が、第二次世界大戦時の特攻の美化につながる、といった批判です。しかし、物語に立ち返って解釈すれば、この作品にはそうした政治的な意味や戦争賛美の意味はないと私は考えていて、それを読者に伝えたいと思ったことが個人的な動機です。

——そして、「AERA dot（アエラドット）」で執筆を始めた。

「鬼滅の刃」について書かせていた

だきたいと、私の方から何社かのメディアにアプローチしました。作品自体に立ち返りたいというこちらの意志を汲んでくださったのがアエラドットの担当者で、自由に書かせていただきました。とはいえ、いきなり政治的な解釈への反論を書くわけにはいかないので、キャラクター論で書き始めて、何本か記事を書いた後、特攻の美化ではないという解釈も発表することができました。

——連載への反響は？

一般的に、ウェブメディアでヒットの目安とされるアクセス数は100万PVですが、最初の記事から100万を超え、その後も同様の反響を連続

があるものの目撃譚が残ることはわかるのですが、幽霊のように体がなくて本来見えないはずのものを、なぜ多くの人が同じようなものとして目撃して、共通性のある語りになるのか、その理由に興味を持っています。

私自身は、物語上における不思議な現象を「怪異」と呼び、怪異を起こすものを「怪異体」と呼んでいます。そこに神様や仏様も含めるので、お叱りを受けることもあります（笑）。

——実際に伝承の聞き取り調査も行う？

聞き取りも行いますが、私の専門は文章の中の語りを読み解くことで、「話型研究」を行っています。語り手から聞き取った話を記録した文章の中の、話の流れ方の特徴を読み解いて、そこに話し手の勘違いや夢との混同、あるいは話し手自身の想像や空想、意図的な創作が加えられていないか、といったことを分析することができるんです。

記録された内容が事実かどうかは私にとっては非常に重要で、怪異という不確かなものが、どういう要素によって事実化されるのか、どういう要素が入っていれば事実として継承されるのか、という点が研究のポイントです。ですから私の研究は、どちらかというと文学的なテキスト

植 朗子先生の最新著書

鬼滅夜話

キャラクター論で読み解く『鬼滅の刃』

扶桑社 本体1,500円+税

植先生が2020年12月からニュースサイト「AERA dot」で発表してきた『鬼滅の刃』キャラクター分析論が単行本化されました。配信されるたびにSNSで話題になり、『鬼滅の刃』ファンの認知度も高い人気連載記事に大幅加筆、新たなキャラクター分析も追加されています。登場人物のセリフや行動の裏にあるものを理解できる一冊です。

topic

若手研究者
紹介

令和3年度「優秀若手研究者賞・学長賞」を 保健学研究科の前重伯壮助教が受賞

大学院 保健学研究科 保健学専攻 助教

前重 伯壮 MAESHIGE Noriaki

■研究歴(主な職歴と研究内容)

2006年～2010年 栄宏会土井病院リハビリテーション科理学療法士 褥瘡に対する超音波療法の臨床研究／線維芽細胞に対する超音波療法のin vitro研究を実施。

2011年～2013年 神戸大学大学院保健学研究科病態解析学領域病態代謝学分野研究員 宇佐美眞教授研究室で、脂肪酸による過剰免疫反応・肝機能障害の制御戦略について研究。

2014年～現在 神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域助教 藤野英己教授研究室と共同し、骨格筋に対する物理療法・栄養療法の効果について研究。

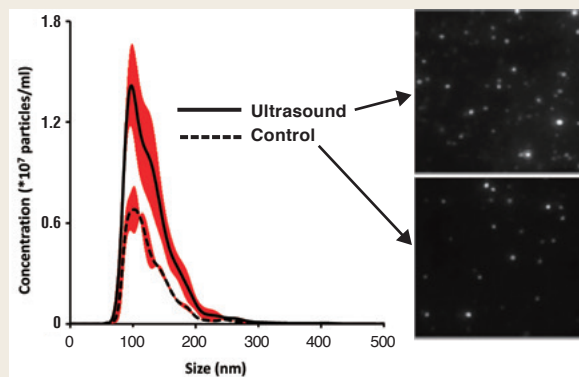
2018年 ハーバード大学公衆衛生大学院Genetics and Complex disease領域客員研究員 Tiffany Horng博士研究室同領域Zhi-min Yuan博士研究室で骨格筋エクソソームによるマクロファージ極性・代謝制御について研究。



神戸大学では、若手研究者の活性化と、将来の研究リーダーとしての活躍を期待して、卓越した業績を挙げた若手研究者を表彰する「優秀若手研究者賞」を毎年度実施しています。令和3年度の実賞者5名のうち、「学長賞」を受賞した保健学研究科・前重伯壮助教に、自身の研究について解説してもらいました。

リハビリテーション専門職(理学療法士・作業療法士)として、私は骨格筋を活用して生体免疫を正・補完する手段の開発に取り組んでいます。骨格筋は、私たちの身体を動かす「運動器」として働くのみならず、全身的に様々な生理作用をもたらす「分泌臓器」であることが知られています。一方で、その疾病の予防・管理への応用方法は明らかにされていません。

近年、各種細胞から分泌される膜小胞、特に「エクソソーム」の作用が注目され、抗炎症作用を有する間葉系幹細胞由来エクソソームの治療応用が進められています。興味深いことに、私達は培養筋管が分泌する筋由来エクソソームがマクロファージの過剰炎症反応を抑制すること、前立腺がん細胞の増殖を抑制することを、ハーバード大学公衆衛生大学院での留学研究(若手教員長期海外派遣制度)で発見することができました。骨格筋は、運動や物理療法によって、治療者または対象者自身が意識的に活動を制御できるため、分泌臓器として活用しやすく、さらに、体外での培養や他者からの移植を必要としないため非常に簡便です。現在、エクソソームおよびレシピエント細胞内のメタ



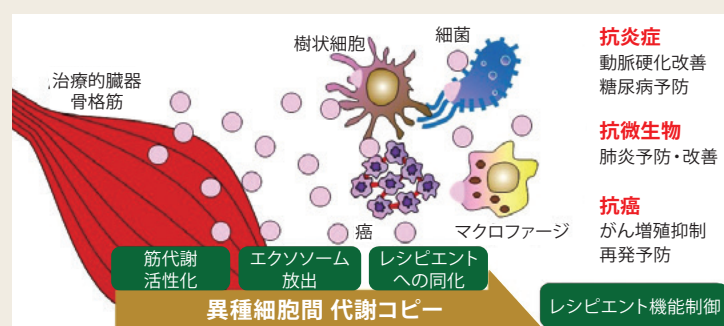
■高強度超音波照射による筋由来エクソソームの放出促進

ボロミクス解析とmiRNA-Seq解析にて機序解明を行い、筋の健康を示すバイオマーカー開発に着手しています。

同時に、リハビリテーション介入手段の一つである物理療法、特に超音波療法の開発に注力しています。超音波療法は、照射組織でキャビテーション(空洞現象)を生じることによって、様々な細胞反応を惹起します。私は、褥瘡に対して中等度強度(0.5 W/cm²)の超音波を照射して治癒が促進することを報告し、国内外の褥瘡ガイドラインの治療推奨に貢献しました。また、国内の物理療法機器メーカーが開発した音響出力の均一性が高いプローブを活用することで、細胞傷害性を生じない高強度超音波照射(1～3 W/cm²)を可能にし、様々な効果を報告してきました。

その応用の一つとして、筋エクソソームの放出促進を検出しました。培養筋管およびマウス骨格筋への超音波照射で効果が明らかになったため、現在はヒト骨格筋への照射を目的として、広範囲照射が可能な超音波治療機の開発に取り組み、試作機の作成を終えた段階です。

骨格筋は人の生活や健康に幅広く貢献する器官ですので、汎用性が高く効果の大きいリハビリテーション技術を神戸大学で開発し、世界に発信することを目指します。



■骨格筋エクソソームの生体内産生制御による疾病予防・治療技術の開発

神話とポップカルチャーに人が求めるもの

していただきました。不定期の連載に発展して、私が「鬼滅の刃」について書いていることを広く知ってもらえるようになり、アニメ放映の第二期が始まってからは200万～400万PVのアクセスをいただいています。記事にはコメント欄があり、多くの読者が書き込んでくれるので、全て拝見しています。

人々は理想と救済のカタチを神話に求めている

——現代のポップカルチャーを、神話や伝承と并列に研究することは、一般的な姿勢なのですか？

もともとの神話の定義は「神を語るもの」ですが、神話ジャンルという文学の定義の中には英雄伝説が含まれます。国を救う、地域を救う、ある特定の団体を救う、子供を救うといった英雄伝説も神話の一つと考えることが共通認識になっているので、フィクションであつてもヒーローが出てくる物語については、神話の一つとして研究される方はたくさんいらっしゃいます。ただし、神話と歴史を密接に結びつける立場の研究者と、そうでない研究者に分かれます。

神話の研究分野が非常に多岐にわたっていること自体が、現在の研究



植先生が編者を務めた創造神話集『はじまりが見える世界の神話』(創元社)。画家・阿部海太氏の絵とともに、20人の専門家たちが世界各地の「世界のはじまり」を紹介している。



「鬼滅の刃」の研究から、ご専門の神話・怪異研究にフィードバック

の特徴だと思っています。例えば、社会学の視点から研究したり、思想史から研究したり、アニメや漫画、映画研究の面から神話を研究したり。いろいろなジャンルから神話の研究が進められて、結論が一つになったときはとてもスッキリします。

「鬼滅の刃」では鬼を倒すための条件があり、それはまさにモチーフなのです。たとえば、日輪刀という太陽の光を物質化した武器でしか鬼を倒せない、藤の花の毒を使って鬼を弱らせることができる、といったものです。自然界の物質や力を凝縮させて超自然的な力を作り出すことは、古来の伝説や神話に見られるもので、共通性があります。また、登場人物に親がない子供が多いことも、英雄伝説における英雄の条件の一つと合致します。

——現代人が創作した物語と、古来の神話との共通点からわかることは？

その時代の人々が何を希求しているのか、どこに救済を求めているのか、という疑問に対する答えに近づけると思います。もちろん、作品ごとに異なるテーマが設定されている

わけですが、それらの間に時代的な共通性を見出すことも可能です。人々が神話に求めるものは、何かしらの救いとか理想の形なのだと思います。自分がこうありたいとか、こういう風に救われたいとか。

——現代人を読み解く作業なのですね。今後の研究活動については？

今、植物の神話を研究しています。これも体と関係があるので、ドイツの医学史研究所の研究をもとに、昔から「その植物を摂取すれば病気が治る」といった迷信のような考えとともに使われてきた薬草について、本当に薬用効果があり、かつ神話的な物語があるものをピックアップして研究しています。昔話と科学文献をつきあわせて、誤った服用を導かないよう科学的な正確性をキープしながら進めています。

また、ポップカルチャーについては、2022年2月27日に、「『ジョジョの奇妙な冒険』×『鬼滅の刃』における「神話的物語」の創生」を「はじまり」をもたずに出会いと発表から生まれる「変化」と題する学術シンポジウムを、国際文化科学研究推進センターの主催で開催します。両作品のファンの方も含め、一般の方にご参加いただければ嬉しいです。



神戸大学サッカー部 <https://kobeunivfootball.com/>

インタビュー 学生広報チーム



渋谷 優衣 人間発達環境学研究所2年 SHIBUYA Yui

——サッカー部の強みは何ですか？

森：「組織としての練度」です。練習や試合で100パーセントの力を出すのはも

ろ、プレイングだけでなく人間的にも成長しないといけないと考え、このような価値観を持って活動しています。

——サッカー部の理念と3つの価値観について教えてください。

森：今シーズンのチーム理念として「サッカーを学び、サッカーから学ぶ」を掲げており、3つの価値観に、利他実績、凡事徹底、七転八起があります。私立の強豪校とは違って推薦もなく、自分たちの意思で入部を決めて、自主的に運営している部なので、プレーするだけでなく人間的にも成長しないといけないと考え、このような価値観を持って活動しています。

——CFに挑戦しようと思ったきっかけを教えてください。

森：長期ビジョンである関西学生サッカーリーグ戦の1部昇格を目指し、コロナ禍でも練習の機会を減らしたくないという思いから、CFに踏み切りました。普段は鶴甲第一キャンパスのグラウンドを使用していますが、兵庫県の対処方針に基づいて大学のグラウンド使用が制限され、学外のグラウンドを使用することが増えました。そのため、後期リーグにおいて外部のグラウンドを借りる資金の補填として、寄付を募らせていただきました。

栗山：リーグ戦は人工芝のグラウンドで行われますが、神戸大学サッカー部では学内の人工芝グラウンドは他団体との兼ね合いにより使用が限られています。土のグラウンドでは、パスの精度が落ち、トラップの練習ができない部分があるので、なるべく本番を想定した練習をするためにも、日ごろから外部の人工芝グラウンドを借りています。

住田：CF自体は二年ほど前から行いたいと幹部で話していました。まず、学生団体でもCFを行えるよう大学に嘆願書を提出し、今年の春に制度が成立しました。そして、せっかくサッカー部が始めたことだから、先陣を切るうかと。職員の方も協

力してくださり、何としても第一号を成功事例にしたいという思いがあったので、目標を達成できてとても感謝しています。

——サードゴール(200万円)も達成されましたね。改めて今のお気持ちを聞かせください。

森：率直な感想としては、予想よりもはるかに速いスピードでご支援をいただき驚きました。支援者の方には、若手のOBの方や親世代の方が多く、身近な方々の応援が大きいと感じています。皆様支援したいという思いを持ってくださっていると実感し、身が引き締まる思いです。

——今後の抱負や目標を教えてください。

森：今シーズンは2部残留が最低条件で、来年以降は1部を目指してチーム作りをしていきます。運営面でも、これだけ応援してもらえる部なのだというのを部員一同再認識できたので、OBの方や地域の方との企画を積極的に進め、部をもっと知ってもらえる機会を増やして、



神大生の挑戦

164名からの応援の気持ち

——コロナ禍の活動制限を乗り越え、さらなる高みへ——



副将 経済学部3年
栗山 高季 KURIYAMA Takaki

主将 経営学部4年
森 啓太 MORI Keita

今年、サッカー部が学内で初めて挑戦した学生主体のクラウドファンディング(CF)では、目標の3.5倍を上回る248万7000円の支援金が寄せられました。主将の森啓太さん、副将の栗山高季さん、主務の住田祐起さんとのインタビューをお届けします。

——神戸大学のサッカー部に入学しようと思った理由を教えてください。

森：私立大学と国立大学のハイブリッドを実現していると思ったからです。神戸大学サッカー部には指導者としての経験を積まれた社会人コーチがいますが、その環境は国立大学ではあまりありません。そういった私立大学のような強みと、全員が活躍できるチャンスがあるという国立の強みを併せ持ち、サッカーをしつかり学ぶ上では一番だと思い入部しました。

栗山：他の大学の推薦もありましたが、これまでずっとサッカーしかやってこなくて、大学で続けるか迷っていたので、自分の視野を広げたいと思い、神戸大学に進学しました。

住田：僕はマネジメントが好きだったので、マネージャーとして4年間運営に携わっています。高校までサッカーをしていたので、何回か練習を見に行つて、楽しそうだなと思い入部を決めました。運営も

より大きい部に行きたいです。

栗山：僕自身1年生のときから1部を目指してこの部活に入つて戦ってきました。神戸大学サッカー部もかつて1部で戦った歴史があり、昇格できる戦術、戦力はあるので、来年に向けてしっかりと基盤作りをしていきたいです。

WE HAVE WINGS

〜神戸大学から世界へ〜



1971年東京都生まれ。神戸大学教育学部卒業。在学中に劇団☆世界一団を結成。現在はsunday (劇団☆世界一団を改称)の代表で、全ての作品の作・演出を担当している。2003年には、映像や音楽を取り入れた言葉を発しない、ノンバーバルパフォーマンス集団THE ORIGINAL TEMPOのプロデュースを行い、エジンバラ演劇祭にて5つ星を獲得。手掛ける作品はジャンルレスで、ノンバーバル、ストレートプレイ、ミュージカル、2.5次元舞台と多岐にわたる。2021年には、東京パラリンピック開会式の演出を務めた。

— 在学中に劇団を立ち上げられましたが、演劇やパフォーマンスとはどこで出会いましたか？ また、立ち上げたきっかけを教えてください。

神戸大学演劇部自由劇場との出会いが演劇人生のはじまりです。自由劇場で何度か作・演出を担当して、自分が思い描く世界をみんなに演じてもらって、それをお客さんが観るということがとても楽しかったです。当時は仕事にしたいとまでは思っていないでしたが、続けたいとは思いましたね。

3年生のとき、大学の近くにある灘区民ホールのこけら落としを自由劇場が行うことになって、僕が脚本・演出をする

ムに加わることになったんです。でも、コロナ禍で2020年大会が延期となつて、新しくチームを作り直すことになり、サンドロヴィッチさんが演出から離れて、僕がトップをやらせていただくことになりました。

— パラリンピック開会式の演出ならではの大変さがありましたか？

開会式はいろいろな要素が絡んで複雑だし規模も大きいですが、やることは他の演出とそんなに変わらないです。ただ、当たり前ですが、誰も開会式なんてやったことないですよ。わからないことだらけで、何度もやってみては間違つての繰り返しでした。その中で、全員がワンチームになって、くじけずに成功させようという熱い気持ちを持つて挑んでいました。この開会式が多くの人にとって何か感じるもののあるものだったのなら、関わった全員のその気持ちが伝わったのだと思います。

— 今後やってみたい演出やステージはありますか？

たくさんあります。頭の中に空想して



中尾 満里奈 法学部3年



正中 麻侑生 文学部人文学科3年

— 演じることよりも脚本を書いて役者を動かすことの方が性に合っていたということでしょうか？

そうですね。役者をやったのは1年生の夏公演が最初で最後でした。そのときに、人前に出て泣いたりわめいたりするのは僕にはできないなと気づきました。もともと幼い頃から、自分が表に出て何かをするよりも、クラスの人気者に何かをやってもらったり、自分で遊びを編み出して誰かに楽しんでもらったりする方が好きな性格だったんです。

30代の頃に演出家になろうと決めて、将来の目標は国際的な式典の演出と出したいのも同じくらいの時期です。そこから先は、いろいろなものを観たり、ワークショップ^(※1)を開催したりしてたくさん勉強しました。

— 演出家を目指したときからオリンピック・パラリンピック開会式を意識していたのですか？

演出家の定義って難しいし、自分でもピンと来ていなかったんです。そこで演出家の一番大きい仕事は何かを考えた



この画像はフォトグラファー/コレクション: Picture alliance ゲッティイメージズから提供されています。



神戸アートビレッジセンター (KAVC) 舞台芸術プログラムディレクターとしての活動の様子

— その夢が今年叶いましたね。どういった経緯で演出に関わるようになったのですか？

当初の演出トップは、同じ事務所の演出家・ケラリーノ・サンドロヴィッチさんでした。彼に声がけしてもらい、チー

※1 参加者が専門家の助言を得ながら問題解決を図る研究集会。 ※2 マンガやアニメなどの2次元コンテンツを舞台・ミュージカル化し、3次元で表現した作品。



WMG オークランド大会での関西大会PRブースにて



アジアパシフィックマスタース大会（マレーシア・ペナン）現地調査



生涯スポーツで高齢社会の意識を変える

長ヶ原 誠

大学院 人間発達環境学研究科 教授 CHOGAHARA Makoto

カナダ・アルバータ大学にて博士号 (Ph.D.) を取得、1999年神戸大学発達科学部講師。スポーツプロモーションやジェロントロジー（老年学）に関する研究を行い、マスタース甲子園実行委員長、ワールドマスタースゲームズ2021関西レガシー創出委員会委員長など、成人・中高年者を対象としたスポーツイベントの開発や振興事業を実践している。



ワールドマスタースゲームズ（以下WMG）というイベントをご存知だろうか。国際マスタースゲームズ協会（IMGA）が主催する中高年齢者のための国際スポーツ大会で、1985年以来、ほぼ4年ごとに世界各地で開催されている。原則30歳以上の誰もが出場できるオープンな大会で、現在、日本の関西エリアでの開催準備が進行中。その誘致活動を推進してきた長ヶ原誠教授に、開催の社会的意義とレガシー創造について聞いた。

スポーツ振興におけるイベント開催の重要性

――WMGを誘致した理由は？

私の専門分野は平たく言えばスポーツ振興で、スポーツを通じて人々の健康を増進したり、地域活性化に貢献したりする手法を研究しています。スポーツ振興においては、ハレの舞台としてのスポーツイベントを開催することが非常に重要で、その理由はイベントへの参加を目指して人々が群がり、チームを作ったり、練習を始めたたり、自身の健康づくりを意識したりとさまざまな活動を始めて活性化するからです。WMGは世界中の人々が参加する大会ですから、まさに大きな舞台となります。オリンピックのように観戦するだけでなく、自ら参加してメダルを狙える国際大会ですからね。

私自身、1998年にアメリカ・ボートランド大会に出場しました。その時の感動からWMGを日本に誘致したいと考えるようになり、2000年に行われた滋賀県による第8回大会の誘致活動に参加しました。その時は落選となりましたが、私はIMGAのアジア理事として以後の大会をずっと見てきました。今回の関西大会には、組織委員会の評議員として参画しています。

――WMGの魅力とは？

ユーススポーツやプロスポーツとは違い、中高年齢者が行う生涯スポーツには

国際大会がほとんどありません。特に日本の場合、多くの人にとってスポーツはユースで終わりがちで、その後は目指す舞台がなくなる。選手達は急にはしごを外されて、競技から遠ざかってしまう。日本では加齢とスポーツが融合していないからです。

一方、海外では「Sports for All」という捉え方が一般的で、WMGには元オリンピック選手などのいわゆるレジェンドも参加し、一般市民と一緒に競技を行います。当然、レジェンドの成績は圧倒的なものになるのですが、より大きな拍手が一般市民選手に贈られる。マスタースには敬老思想があるので、選手の年齢が上がるほど会場が盛り上がるんです。また、家族でチームを作って参加したり、夫婦やカプルのペアで出場するというWMGならではの光景も見られますし、大会後の観光も含めてスポーツツーリズムとして楽しむ人も多い。そうした生涯スポーツの楽しみの広がりや、高齢化が世界一進んだ日本で体験してもらえれば、高齢社会に対して明るい視点を持つ人を増やせると思います。

ソフト面の多様なレガシーを残す

――関西大会のレガシー構想とは？

WMGでは今回初めてとなりますが、誘致段階からレガシー創出委員会を設置しました。関西広域連合と、私の研究室が運営する「マスターススポーツ振興支援室」が

中心になってレガシー原案を作り、招致計画書に反映しました。招致計画においては、開催の意義が問われます。何のために開催するのか、そして大会の効果を一過性でなく継続的なものにし、開催後もスポーツを通じていろいろなことを活性化していくために、どんな大会にするのか、その答えがレガシー構想になります。

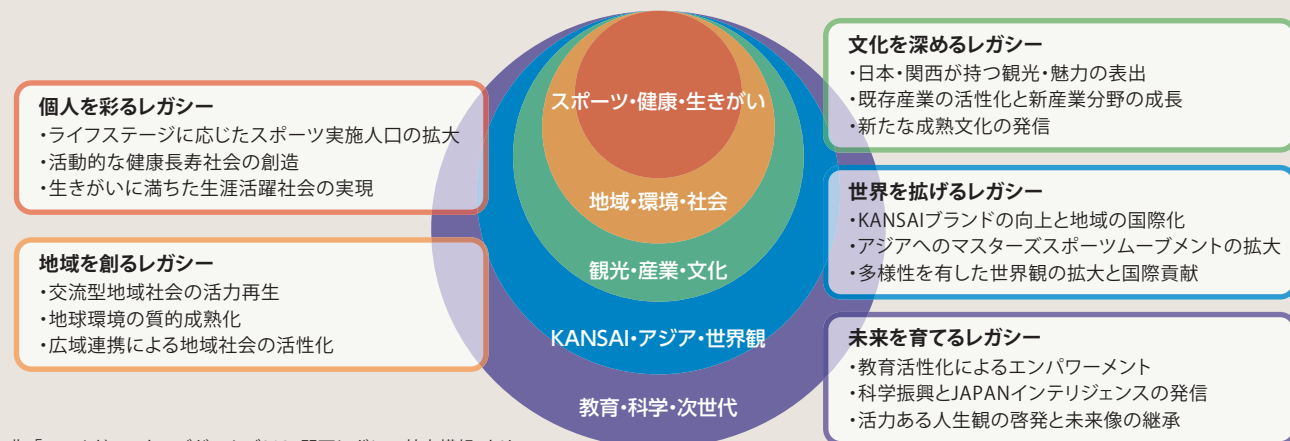
東京オリンピックではハード面のレガシーが注目されましたが、WMGでは既存施設の活用を提唱しているので、ハード面のレガシーはあまり残りません。それよりもソフト面を重視して、「個人のスポーツ」「健康増進」「生きがい」「地域活性化」「観光や産業の活性化」「国際化」「教育」などに貢献する方向で策定しました。

一例をあげると、ブリスベン大会が開催されたオーストラリアでは、WMG開催後に、クイーンズランド州が「パン・パシフィックマスタースゲームズ」という独自のイベントを開催し始めました。これは典型的なレガシーイベントで、今では大変な盛況ぶりです。こうしたローカルレガシーを関西でも生み出し、それを新たな「舞台」としてさらなるスポーツ振興につなげていきたい。同時に観光の活性化、高齢社会の意識改革などを実現することも重要なレガシーになると考えています。

――関西大会に限定されない普遍的なコンセプトですね。

生涯スポーツに関しては、そう言えるか

ワールドマスタースゲームズ 関西のレガシー創出テーマ



出典：「ワールドマスタースゲームズ2021関西レガシー基本構想」より

もしれません。ただ、WMGに合うものを選択し、プロジェクトを作って推進することが、レガシー創出委員会の役割です。そして、委員会が推進するリーダーシッププロジェクトと、外部から参画してもらうエンゲージメントプログラムを両面で推進して、みんなでレガシーづくりを行うことが理想です。エンゲージメントプログラムについては、私達が策定した5つのレガシー創出テーマ（図参照）ごとに参画プログラムを募っています。そこで起こるいろいろな現象をモニタリングし、数値的に実証しながら総括して、具体的なレガシー創出計画に結びつけるイメージです。

私達はこれまでに開催されたWMGのレガシーを評価・研究して、その成果を関西にあてはめました。そして、関西の観光資源や文化的な資源、震災復興の関連で充実しているボランティア文化など、関西エリアに備わっているさまざまな資源とうまく組み合わせれば、過去の大会以上にレガシーを残せると考えています。

――大会は二度も延期されています。

それだけ準備期間をいただいたと思って、がんばるしかありません。WMGは参加型のイベントです。コロナ禍で延期された分、大会の認知を広げる活動ができ、それだけ参加者やボランティア、サポーターを増やせます。それこそが我々の提唱する一番大事なレガシーなのです。



class

コロナ禍の「深江丸」での船舶実習 —— 海事科学部グローバル輸送科学科4年

小林 優 KOBAYASHI Masaru



練習船深江丸船橋からの景色

船舶実習の授業は、新型コロナウイルスの感染対策を万全に行ったうえで開講されました。

私が乗った実習では、まず乗船3週間前からの活動自粛と毎日2回の検温、乗船時の検温と問診票の提出がありました。また、講義は間隔を空けて座ることが義務付けられており、食堂にもパーテーションが設置され、食事中の私語は原則禁止でした。

実習期間にも影響がありました。例えば、本来は2ヶ月間乗船するところを、1ヶ月間は自宅で座学をするという特別措置で、2ヶ月分の乗船履歴をつけてもらいました。乗船期間が短縮されたことで、普段の実習なら全員が一通りの体験をできる、というところも機会が回ってこないことがあり、積極的に参加する姿勢が大切だと感じました。また、当時、寄港した際の下船が、現地の住民の方々

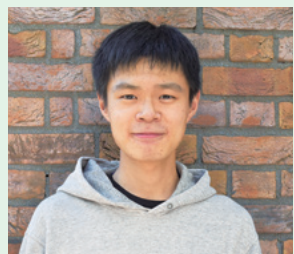
の迷惑になることが想定され、活動が制約されており、一番のストレス発散が制限されていたことが大変でした。

しかし、実習で乗船することの意味は大きく、実際にその機械や実物を見たり、船と出会ってよけたり、体験しないとわからないことがたくさんあります。船の業界は経験がものを言うところがあるので、経験を積むという意味でも実習はとても重要です。

これから実習に参加される方には、実際の現場で得る情報のインプットや、知識のアウトプットができる稀有な機会を最大限に活用してほしいです。また、数ヶ月の船旅はキツイこともありますが、寄港地での下船が再開されたら、修学旅行みたいで楽しいこともあります。航海士、機関士としての最初乗船履歴となるので、より充実した実習が再開できるよう望んでいます。

club

活動制限下で成し遂げた総合優勝 [学生フォーミュラチームFORTEK] —— 工学部機械工学科3年 村田 康貴 MURATA Koki



私たちは普段、年1回開催される学生フォーミュラ日本大会に向けて、フォーミュラカーと呼ばれる車両を設計、製作し走らせています。製作から車両の走行に至るまで学生が主体となっていくのはもちろん、企業スポンサー様にもご支援頂いており、企業の方との渉外交渉も自分たちで行っています。

昨年から、新型コロナウイルス感染対策により対面での活動が制限されたことで、車両の製作時間が大幅に減少してしまいました。ミーティングも基本的にはオンラインで行い、お互いの状況把握や密なコミュニケーションを確保することに苦労しました。

しかし、活動時間が制限されたことで、限られた時間を最大限効率よく使う必要があり、作業の効率化を進められた他、作業に対する集中力も上がりました。その結

果、学生フォーミュラ日本大会2021で、車両を走らせないオンライン審査での総合優勝を獲得することができました。困難なプロジェクトを乗り越えたことで、チームは大きく成長できたと思います。来年こそは、車両を走らせての動的種目も開催されると信じて、動的種目も合わせての総合優勝を目標に活動していきます。

プロジェクト発足からずっとコロナ禍の中での活動となった21年度プロジェクトは、イレギュラーなことばかりでした。この大変なプロジェクトを乗り越えたメンバーたちと総合優勝の喜びを分かち合うことができ、本当に嬉しく思います。弊チームの活動に対して個人スポンサー様や企業スポンサー様をはじめ、たくさんの方々にご支援ご声援をいただき、誠にありがとうございました。今後も弊チームを応援していただければ幸いです。

study abroad

ポーランド、ヤゲヴォ大学でのオンライン留学生生活を終えて —— 国際人間科学部グローバル文化学科3年 生駒 芙美乃 ばある IKOMA Fumino Pearl



ポーランドでの生活様式、環境や文化について知りたいと思い決断した留学だったので、初めはオンラインにすることに抵抗がありました。しかし、留学するにはオンラインでの選択肢しか残されておらず、オンラインであっても異国との交流から得られることは必ずあると思い、積極的に進めました。近年は海外大学の授業をYouTubeなどで簡単に見ることができるので、そのような媒体で得られる知識とオンライン留学で得られる体験の差が気になっていました。でも実際は、現地に行ってもきっと同じように体験するだろう履修登録の難しさや、先生との自発的な連絡の必要性などを多く学ぶことができたので、とても良い経験になったと感じています。また留学しながら神戸大学の授業も受けられたことは、オンラインだからこそできたと思います。

困難はもちろんありました。授業はポーランドの現地時

間で行われるので、生活リズムが昼夜逆転して体調を崩すことは多かったですし、他国のほとんどの留学生が現地学んでいるのを目にして、現地に行きたくて学ばないという気持ちが受講ごとに増しました。しかし、私の場合は真夜中の日本で学んでいることを聞いて応援してくれる現地の先生方の言葉で粘ることができました。私が大切だと感じたことは、根気よく質問する姿勢です。分からないことを自身で解釈して落とし込むと危険だと感じる事が多くありました。特に直接会って会話ができないので、食い違いが何度も繰り返され同じような内容の連絡をする場面が多くありました。そこで教授の返信が冷たくても、めげずに自分の疑問が解決するまで聞く忍耐力が必要だと強く感じました。

オンライン留学をするか留学を諦めるかで迷っている方がいたら、確実にオンラインでも参加することをお勧めします。

新型コロナと神戸大学
コロナ禍と向き合う学生たち

—— 学生座談会

—— 授業はどんな感じですか？

木下…前期は対面授業とオンライン授業が半々くらいでしたが、後期から全て対面授業になりました。農学部は実験が多いので、対面の授業も多いのかもしれないです。

岡島…後期は対面授業が3コマ、オンライン授業が10コマです。全学共通科目や言語の授業はオンラインで、学部の専門科目は徐々に対面に戻ってきています。大人数で受ける授業や発声を伴う授業は、やはりまだオンラインでも仕方ないのかなと思います。

野間…3年の後期で取っている授業も少ないのですが、全部で5コマのうち、実習が1コマ対面であって、あとは全部オンラインです。私は家が遠いので、オンラインで時間的には助かったところはあります。

岡島…たしかに、オンラインだと大学への通学時間を他のことに使えますよね。特にオンデマンド形式だと、自分の予定、他の授業などを調整して受けられるのは便利だと思います。ただ、一人で受けているので集中力を保つのは難しいです。

木下…対面形式だとやっぱり友達に会えるのが一番嬉しいし、楽しいです。

—— 部活やサークル、アルバイトなどの状況は？

野間…部活は割と対面で活動できていて、月に1回くらいは部員に会えています。後期は学内でも天体観測ができるようになりました。部長として1、2回生にできるだけ対面の場をあげようと思って、晴れた日には観測会をしています。アルバイトは最近オンラインの家庭教師を始めました。移動しないで働けるので感染対策もできるし、楽だなと思います。

岡島…写真部には6月頃に入部して、本格的に他の部員と交流できたのは夏休みの後半くらいからでした。



文学部人文学科 1年

■ 岡島 智宏 OKAJIMA Tomohiro

写真部、学生広報チーム所属

農学部生命機能科学科 2年

■ 木下 侑紀 KINOSHITA Yuki

ダンスサークル Etoile 所属

理学部惑星学科 3年

■ 野間 光葉 NOMA Mitsuha

天文研究会所属

木下…ダンスサークルでは学校祭などのパフォーマンスの場がなくなってしまったので、代わりにYouTubeで動画を公開しました。その動画を見て入部してくれた新入生もいて、やってよかったなと思います。アルバイトは塾講師と百貨店の惣菜屋さんで、お客さんが減ったことはありましたが、それ以外は特に変わらずに働けていました。

—— コロナ禍の学生生活全体を振り返っていかがですか？

岡島…一人暮らしで実家にも帰りにくく、前期のうちは早く対面授業にならないかなと思っていました。後期からは対面に戻りつつありますが、生活習慣が変わるため、慣れるまで大変かなと思います。また、オンライン期間中の他の学生の様子がわからなかったで、周りは友達を作り自分は孤立してないか、といった不安があります。

木下…入学したときはちょうど第一波で、みんな何もわからない状態だったけど、SNSを利用して同じ学部の人たちとつながることはできました。でも実際に会えたのは夏休み以降で、初めて会ったときは不思議な感じでした。一年半オンライン生活だったので、急に全部対面になって実験が大幅です。後期になって人が増えた感覚だったんですが、これが本来の大学なんだなと思っていました。

野間…部活では対面での活動が制限される分、どうしたら充実した活動ができるか、何か新しいことができないか考えていました。いろんな人が部活のことを考えてくれたので、部内の雰囲気はよくなりました。私はコロナがなかった1年生の時に仲の良い友達が多かったので、これからそういったことができるようになったらいいなと思います。



誰のためのテレワーク？ 近未来社会の働き方と法

大学院法学研究科教授 大内 伸哉 著

OUCHI Shinya

■ 未来の働き方

近年の飛躍的な技術発展により、デジタルトランスフォーメーション（DX）が進み、社会は大きく変化しています。労働においても、近い将来、人間の仕事の大部分が機械化・省人化され、通勤する必要がない働き方、いわゆるテレワークが標準型になるでしょう。テレワークはコロナ禍における一現象ではないのです。そして人間は、AIやロボットを活用法や、新しいアイデアを生み出すような自律的な仕事を求められるようになります。それは、ただ経営者の指示に従って仕事をする働き方とは異なるため、将来、会社に雇



明石書店
2021年5月 2,420円
249ページ
ISBN：978-4-7503-5203-9

われずにフリーで働く人が多くなると予想しています。

要な政策課題になり、これはまさに労働法で扱うべきもののなのです。

■ 必要な法

私の専門は労働法で、社会の変化に対してどのような法が必要かを研究しています。

先ほど述べたようなフリーで働く人が増えたとき、労働者を守る新しい法が必要になります。というのも、今の労働法は雇用関係にある労働者を保護するためのものだからです。例えば、職業教育はこれまで会社に任せていましたが、雇われない場合はどこで学べばいいのかといった問題が出てきます。個人が経済人として自立するためには必要なサポートをどう行つのが重



■ こんな人に読んでほしい

DXによって社会が変わり、働き方も変わるということに少しでも関心をもっている人に読んでもらって、意識を変える手助けや心構えになったらいいですね。5年後、10年後に技術がどこまで進歩するかはわかりませんが、変化する社会の一步先を見て適応する能力を身に付けることが大事です。この本は一般の方にも読みやすい内容になっているので、社会の変化を知るためにも良いのではないかと思います。

子どもの算数、なんでそうなる？

■ 事件簿

子どもが算数の問題を考えていると、ときにこちらの想定外の発想や誤答が飛び出します。私はそれを「事件」とよび、私蔵の「事件簿」に書き留めていました。この本ではそんな「事件」をいろいろな角度から紹介し、意味を考えています。

子どもの答えが誤っているとき、私はただ正しい答えを教えたり、どう考えてほしいかというのを押し付けたりしないように心がけています。それは、いまこの子にとって自然な見方や捉え方、考え方に基ついた会話が大切だと考えているからです。

■ 誤りへの対応

本の結びには誤りの種類に応じてどう対応するかを表にまとめました。子どもの誤りに対して、それを正すのか、あるいは正さずに見守るのか、といったことを誤りのレベル別に書いたのですが、その線引きはとてもあいまいです。マニュアルのように「こう間違えたからこうする」といったものではなく、子どもの考えを聞き出していく中で対応を考えます。話し方を工夫してみ



岩波書店
2021年3月 1,540円
154ページ
ISBN：978-4-0002-9702-8

大学院理学研究科教授 谷口 隆 著

TANIGUCHI Takashi

も、こちらが想定する展開に話が進みそうにないなど、まだ早いかなと感じたときには無理に正しい答えに導くことはしません。子ども、大人に関わらず、関心のあることは少し手助けするだけで力が伸びますが、向いていない方向に向けさせるのは難しいですね。その時々にもっている力は必ずあるので、子どもの関心を大事にしてほしいし、それができると親子関係も豊かになっていくと思います。

■ こんな人に読んでほしい

小さなお子様がいらっしゃる方、お子様の考えを理解するヒントにしてみたらと思います。また、中高生・大学生の方にも、自分の学び方を考え直す



契機になればと思っています。

今は「探究学習」が花盛りですが、この本を通して、算数でも深い探究型の学びがさまざまなことが伝えられれば嬉しいですね。

神戸大学教職員の著書
(編集、監修、翻訳を含む)
の中から新刊を紹介。
書籍の詳細は神戸大学 HP
「神大人の本」コーナーへ。

神大人の本 検索



経営学の開拓者たち
神戸大学経営学部の軌跡と挑戦



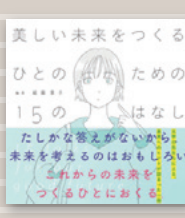
Materialism of Archive
記録のマテリアリズム



他者をめぐる人文学
グローバル世界における
翻訳・媒介・伝達



美しい未来をつくる
ひとのための
15のな



地域経営のための
「新」ファイナンス



聖母の美術全史
―信仰を育んだイメージ―



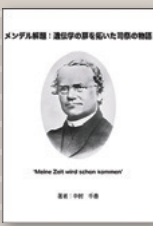
テンソルネットワークの
基礎と応用



テキーラとメスカル
同じ起源をもつ
アガベ・スピリッツ



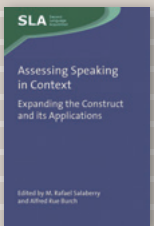
メンデル解題：遺伝学の
扉を拓いた司祭の物語



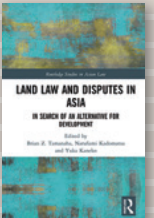
価値創造の教育
神戸大学バリュー・スクール
の挑戦



Assessing Speaking
in Context



Land Law and Disputes
in Asia



保守主義会計
実態と経済的機能の
実証分析



コロナショックと就労
流行初期の心理と
行動についての実証分析



Mini News

理学研究科の修士生が イグノーベル賞を受賞しました

理学研究科地球惑星科学（現惑星学）専攻博士後期課程を修了した村上久さん（京都工芸繊維大学助教）と西山雄大さん（長岡技術科学大学講師）がイグノーベル賞を受賞しました。お二人は神戸大学大学院時代に同じ研究室に所属し動物の群れの研究に共同で取り組んだことがあり、今回受賞した研究は「歩行者が他の歩行者と衝突することがある理由を学ぶための実験」です。歩行者集団において、数人が「歩きスマホ」を行うことで周りの歩行者の通行にも影響を及ぼすことを明らかにしました。



村上 久氏

第15回神戸大学 ホームカミングデイを開催しました



神戸大学の第15回ホームカミングデイが10月30日に開催されました。新型コロナウイルス感染症による影響が継続している状況を踏まえ、対面での開催を中止し、記念式典の様子や各部局の企画を特設サイトで配信しました。

記念式典では経営学部卒業生で元NHKアナウンサーの住田功一氏による講演「阪神・淡路大震災を若い世代に語り継ぐ」や、応援団総団応援団及びレイバンズ・チアによるパフォーマンスなどが行われ、ホームカミングデイを盛り上げました。



ブリュッセルオフィスシンポジウムを開催しました



10月20日に第11回神戸大学ブリュッセルオフィスシンポジウムを開催しました。本シンポジウムはブリュッセル自由大学(蘭語系)との共催で、今回はケント大学(英国)の協力も得て、ブリュッセルでの対面開催とオンライン開催を併用したハイブリッド形式で催されました。初のハイブリッド形式での開催となりましたが、多方面からご参加いただき、関係者間の交流深化だけでなく、停滞していた国際学術交流の重要性を再認識する機会となりました。神戸大学は、コロナ禍、コロナ後においても、同オフィスを拠点として日欧の教育及び研究分野での協力強化を推進していきます。

読者の皆様へアンケートのお願い

神戸大学広報誌『風』18号をお読みになったの感想をお聞かせください。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

✉ ppr-kouhoushitsu@office.kobe-u.ac.jp

※ご職業、年齢を書き添えていただくと幸いです。

WEBフォームもありますのでスマホから今すぐアクセス！



日々更新中！



公式 Twitter
@KobeU_PR



公式 Facebook
神戸大学 _ Kobe University



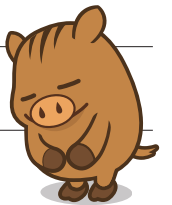
公式 YouTube
神戸大学公式チャンネル [Kobe University]



公式 Instagram
kobe_university

神戸大学基金だより

よろしく
お願いします



基金担当理事のご紹介と創立120周年記念募金のお願い

基金担当の理事・副学長の奥村弘です。常々神戸大学基金を通じて学生や神戸大学の発展にご協力いただきありがとうございます。私は、1983(昭和58)年に文学部を卒業、本学大学院を経て、1991(平成3)年に文学部に助教授として着任しました。以来、30年間神戸大学にお世話になっています。専門は日本近世近代史、とくに地域社会の形成がテーマですが、阪神・淡路大震災を経験し、地域の歴史資料や震災資料の保存、地域の歴史文化の継承、発展という課題にも取り組んでいます。阪神・淡路大震災被災地での歴史資料保存活動の際には、地域にお住まいの卒業生の皆様に多大な励ましと支援をいただき、本学が、多様な文化を支える上で、大きな役割を果たしてきたことを実感いたしました。

現在、コロナウィルス禍で学生の皆さんの状況は厳しく、クラブやサークル、研究室で受け継がれてきた研究慣習など、学生が支えてきた多様な大学文化も危機にあります。この危機に際して、学生の生活を守り、彼らが担う多様な大学文化を未来に継承・

発展させていくことが、喫緊の課題となっております。

神戸大学は来年120周年を迎えますが、周年募金は、このための重要な原資となるものです。具体的には、学生の海外派遣、奨学金給付、課外活動をはじめとするキャンパスライフの充実、キャリアサポートの支援、学生や研究者が自由に交流



できるグローバルハブキャンパスの実現等への支援など多くの活動を促進していきたいと考えています。

次世代を担う学生と大学の研究教育への応援を神戸大学基金へのご寄附の形でお願いできれば幸いです。

※神戸大学基金へのご寄附は、確定申告を行っていただく税制上の優遇措置を受けることができます。

※神戸大学基金については、ホームページもご参照ください。

神戸大学基金

検索



同窓会・校友会・育友会 アラムナイ

硬式野球部が35年ぶりに近畿学生リーグで優勝 ～明治神宮大会を目指す野球部を多くのアラムナイが応援～

本学の硬式野球部はこの秋、近畿学生リーグで35年ぶりの優勝を果たし、明治神宮野球大会(全国大会)初出場に向けた関西地区代表決定戦に臨みました。10月31日(日)大阪南港中央野球場で開催された対天理大学戦の試合には、硬式野球部OB会(渡辺文明会長他)、現役学生、応援団(現役・OBOG)、アメフト部OBOG会、漕艇部OBOG会、陸上競技部OB会、準硬式野球部OB会の皆様はじめ、大村直人理事(学生担当)、高田義弘先生(人間発達環境学研究科)、広報課、卒業生・基金課等の大学関係者が駆け付け、現地での応援は大変盛り上がりしました。



第一戦の対天理大戦は3対5で敗れましたが9回裏の2ランホームランで応援者も選手も飛び上がって喜ぶことができました。残念ながら本大会出場を逃しましたが次回を期待したいものです。

今回の応援の呼びかけには、今年4月に設立した任意団体である「神戸大学公認(体育会系)課外活動団体OBOG会連合会」[会長：新垣恒則さん(1965年経営卒、馬術部OB)]のネットワークが大いに活躍しました。連合会は各課外活動団体OBOG会と連携し、現役課外活動団体の活動を応援していきます。